

だい ぶ かだい  
第5部 課題

だい かい  
第15回

まいにち にゅうりょく  
毎日パソコン入力コンクール

ぜんこくたいかい  
全国大会

か だい  
【課題】

だい ぶ わぶん しょうがくせいこうがくねん  
第5部 和文A 小学生高学年

かんりょうく  
ことわざ・慣用句②

せいげんじかん ぶん  
制限時間5分

とうじつ ちゅういじこう  
【コンクール当日の注意事項】

1. 競技委員の指示があるまで、この用紙に手を触れないでください。
2. 競技委員の指示にしたがい、18桁の参加番号を半角数字で入力してください。
3. 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、小学館 例解学習ことわざ辞典 第二版より引用しました。  
(文字数2, 1000字程度)

かだいぶんしょう きんそくもじ  
〈課題文章の禁則文字について〉

まいにち にゅうりょく いんりょう ぶんしょう げんぶん と こ  
毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでい  
るため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のPDFファイルど  
おりに入力すると正解になります。

しゅさい  
主催

まいにちしんぶんしゃ  
毎日新聞社

いっばんしゃだんほうじん にほん のうりょくけんていいいんかい  
一般社団法人 日本パソコン能力検定委員会

こうえん  
後援


そうむしょう  
総務省


もんぶかがくしょう  
文部科学省


こうせいろうどうしょう  
厚生労働省


けいざいさんぎょうしょう  
経済産業省ほか

1行32字詰で、つぎの文章を入力してください。


※  の箇所で行 (Enter) してください。


いちじつせんしゅう  
一日千秋 


ひじょうまどお 非常に待ち遠しいこと。いちにち 一日がとてながも長くかん感じられること。 

いちじつせんしゅうおも 一日千秋の思ひいでその日まを待まちわまびる。 





ねこの手ても借かりたい 


ひじょう 非常にひといそがたしくて人たが足たりない。 

ひ 引こっ越てしかでねこの手まも借まりたいほど手たが足たりない。 





ひんこうほうせい  
品行方正 


おこな 行りっいが立ただ派たで正ただしいこと。 

かれ 彼ひんこうほうせいはせいねんいたせいって品せい行せい方せい正せいな青せい年せいです。 





こころ 心に描えがく 


あれこれおもと思おもいうかおもべる。 

まだ見ひとぬ人こころのこえがとをあれこれこころ心に描えがく。 




き 機てん転きを利きかす 



とあたっはさに頭はを働こうかせてその場どうにどうふどうさわしい行どう動どうをとどうる。 

機き転てんを利きかして、ともうっふさに毛ひ布けをかとぶせて火けを消とし止とめる。 





えりを正ただす 


服ふく装そうや姿し勢せいをきちんとして、まきじめな気も持もちで事ことにあたある。態たい度どを改あらめ

める。   
せんせい 先生ちゅうこくからの忠ただ告きをえりを正きして聞きく。 




みず 水えを得うた魚おのよう 


その人ひとに合あった場ば所しょを得えて、生いき生いきと活かつ躍やくするようす。 


体たい育いくの時じ間かんだと水みずを得えた魚うおのようげんに元げん気きになる。 




笑わらう門かどには福ふく来きたる 

いあつかつも笑わらい声こゑがたあえない明あるい家か庭ていには自し然ぜんと幸こう福ふくがやくって来くるもの

だ。 

そくらんな暗かい顔かおをしてはだめ、笑わらう門かどには福ふく来きたる。 



足あしが棒ぼうになる 

あし  
足がひどくつかれて思うように動かず、棒になったようになる。☞

いちにちじゅう ある まわ あし ぼう  
一日中、歩き回って足が棒になる。☞

め はな さき  
目と鼻の先☞

きょり ひ じょう ちか  
距離が非常に近いこと。☞

ゆうびんきょく わ や め はな さき  
郵便局は我が家の目と鼻の先にある。☞

すみ お  
隅に置けない☞

おも  
思ったよりすぐれていたたり、よく知っていたりして、ばかにできない

こえ すみ お  
。声がよくて、カラオケがこんなにうまいとは隅に置けないね。☞

いち ごいち え  
一期一会☞

いっしょう いち ど で あ に ど  
一生に一度の出会い。二度はないこと。☞

いち ごいち え おも で あ たいせつ  
一期一会と違って出合いを大切にする。☞

なら な  
習うより慣れよ☞

なら なん ど けいけん な  
習うより、何でも経験して慣れてしまったほうがしっかり身につく。☞

なら な まいにちれんしゅう あ く  
習うより慣れよと、毎日練習に明け暮れる。☞

ぬ て あわ  
濡れ手で粟☞

なんの くるう おお り えき え らく おお  
なんの苦労もなく大きな利益を得ること。楽に大もうけをすること。☞

たから あ ぬ て あわ たいきん  
宝くじが当たり濡れ手で粟の大金をつかむ。☞

に く っ  
二の句が継げない☞

あきれたりおどろいたりして、次のことばが出てこない。☞

あいて けんまく き どうてん に く っ  
相手の剣幕に気が動転して二の句が継げない。☞

に かい めぐすり  
二階から目薬☞

ものごとが思うようにならないで、もどかしいこと。また、やり方に

むり ough か  
無理があつて、効果がないこと。☞

それとなく言ったぐらいじゃ二階から目薬で効き目がない。☞

いき あ  
息が合う☞

たがいの ちょうし き も あ  
たがいの調子や気持ちがうまく合う。☞

うた て いき あ  
歌い手とばんそうの息が合う。 ◀

おね  
胸がおどる ◀

きたい わね こころ  
期待で胸がわくわくする。心がおどる。 ◀

かいがいりょこう わね  
はじめての海外旅行に胸がおどる。 ◀

くうぜんぜつご  
空前絶後 ◀

いま れい お おも  
今までに例がなく、これからも起こりそうもないと思われること。 ◀

えいが くうぜんぜつご だい  
映画は空前絶後の大ヒットとなる。 ◀

はるいちばん  
春一番 ◀

にがつまつ さんがつ とし ふ つよ みなみかせ ふ  
二月末から三月はじめに、その年ではじめて吹く強い南風。これが吹くと春になるという。 ◀

れいねん はや はるいちばん ふ  
例年より早く春一番が吹いた。 ◀

ゆうめい おじつ  
有名無実 ◀

なまえ なかみ な  
名前ばかりで、中身が無いこと。 ◀

す きんし ゆうめい おじつ  
たばこのポイ捨て禁止といっても有名無実で、だれがとがめるわけではない。 ◀

ぼうちゅうかん  
忙中閑あり ◀

いそが なか いちじ かん  
忙しい中でも一時ひま（閑）のあること。 ◀

ぼうちゅうかん ひといき  
忙中閑あり、一息つこう。 ◀

ふゆ き はるとお  
冬来たりなば春遠からじ ◀

ふゆ く はる とお  
冬が来れば、春もそう遠くはない。 ◀

ふゆ き はるとお すこ  
冬来たりなば春遠からじ、もう少しのしんぼうだよ。 ◀

て  
手をにぎる ◀

なかなお きょうりょく こと あ どうめい むす  
仲直りをする。協力して事に当たる。同盟を結ぶ。 ◀

りょうこく か こ す かた て あ  
両国は、過去のわだかまりを捨て、固く手をにぎり合った。 ◀

まぎ  
紛れもない ◀

ほんとう  
まちがいなく本当のことである。 ◀

まぎ かれ えが え  
これは紛れもなく彼の描いた絵だ。 ◀

◀

みず う  
水を打ったよう

たすう ひと しず  
多数の人が静まりかえっているようす。

きょうしつ みず う  
教室が水を打ったようにシーンとなる。

う おう さ おう  
右往左往

あわてふためいて、動き回るここと。

きゅう あめ ふ ひと ひと う おう さ おう  
急な雨降りて、人々が右往左往する。

ぼう いん ぼう しょく  
暴飲暴食

むちやく ちゃに飲み食いすること。

ぼう いん ぼう しょく からだ  
暴飲暴食をつつしまないと体をこわすぞ。

せん べん ばん か  
千変万化

ものごとが、さまざまに変化すること。

せん べん ばん か くも すがた ところ うば  
千変万化する雲の姿に心を奪われる。

いき  
息をのむ

息が止まるほどにおどろく。はっとする。

しろ かがやく やま うつく 美しさに息をのむ。

いっ き いちゆう  
一喜一憂

ようす が 変わるたびに、喜んだり、悲しんだりすること。

だいせっせん し あいてんかい いっ き いちゆう  
大接戦の試合展開に一喜一憂する。

あせのけっしょう  
あせを流し、苦勞を重ねたすえにできあがったもの。

おこめ や やさい のう か ひと  
お米や野菜は、農家の人のあせのけっしょうです。

とうかく あらわ  
頭角を現す

さいのう ぎのう が、ほかの人よりも特にすぐれて目立つ。

しんしんき えい さっきょく か どうかく あらわ  
新進気鋭の作曲家として頭角を現す。

みが  
磨きがかかる

れんしゅう けいけん つ かさ けっ か わざ げい  
練習や経験を積み重ねた結果、技や芸がよりすぐれたものになる。

けいけん つ えんそう みが  
経験を積んで演奏に磨きがかかる。

ひざを打つ

なるほどと感心したり、急に思いついたりして、ひざをたたく。

「いい考えがある」と思わずひざを打つ。

↓

首を長くする

待ちこがれる。待ち遠しく思う。

今か今かと首を長くして待つ。

↓

人の振り見て我が振り直せ

他人の行いを見て、自分を反省し、直すところがあれば直しなさい。

練習しないとああなるぞ、人の振り見て我が振り直せ。

↓

歯に衣着せぬ

思った通りを遠慮せずにはずばずば言う。

相手の歯に衣着せぬ言い方におっとする。

↓

筆が立つ

文章がうまい。

小さいころから筆が立った彼女は、後に作家となった。

↓

的を射る

大事な所を正しくとらえる。

要点をわきまを射た批評だ。

↓

輪を掛ける

程度をさらにいっそう大きくする。実際より大げさに言う。

弟は、兄に輪を掛けたきかんぼうだ。

↓

ひざを交える

へだてなく同席する。ひざをふれあうようにして打ちとけて話し合う。

↓

かんきょう問題について大臣と住民がひざを交えて話し合う。